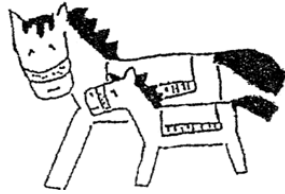


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 7月 NO. 248



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～

7月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

7月 4日	土	体験保育 10:00～12:00	お子さまと同じ年齢のクラスに 入っていっしょにあそびましょう。
7月 17日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「夢に向かってとび出そう」をテーマに 絵本やわらべ唄、大型紙芝居もあります。
7月 18日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
7月 24日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり 相談できます。（予約要）
7月 24日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「子育て元気に健康体操」をテーマに コミュニティースポーツ指導者 吉田静子氏と 実技をします。どなたでもどうぞ。
7月 25日	土	手品教室 14:00～16:00	うちわを使ったマジックをしますので 初めての方もどうぞおいでください。

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



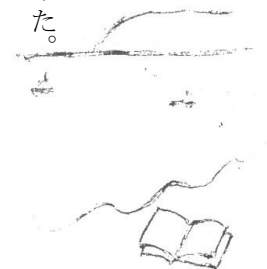
金子みすゞ 童話全集①

こ 購
う て 落
と し て 行
っ た の よ。
旅 の 日 記
を つ け
よ と て、
南 へ か
え る つ
げ ば く
ら が、
き っ と
夜 あ
け に
飛 ん
で い
た、

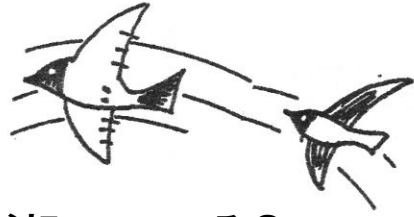
砂 み 波 誰
に え に も
は り き 落
の か い と
あ ぎ いて
と り も
を さ 波
が ざ
し て ざ
も ざ
も ざ
も ざ

な 緋 ひ ち
か 縺 い
は 子 さ
ま の かな
ま の 表 朝
っ の 紙 帳
白 の 砂
、 あ 金 浜
た ら 文 み
し い 字 っ
け た。

つばめ
燕の手帳



「子どもと親の今」



東京家政大学ナースリールーム
主任保育士 井桁 容子

今、小学校で何が起きている？

私の園へおむかえにくるお母さんから、おじいちゃんのAさん（60歳半ば・男性）が近くの小学校へ手伝いに行っていると聞き、直接Aさんに話を聞いてみました。

「自分は、スポーツ少年団にかかわっているという立場の地域の人間として、公立小学校の6年生のクラスの授業中に教室にいる。

その小学校では教師が授業をすすめる間、クラス担任のほかに子どもたちを見張る役割の大人がいないと授業が成り立たない。授業中に床で寝そべったり走りまわったり、いろいろなものが教室の中で飛び交ったりするので、それをさせないために、校長からの要請を受けて、各クラスに1～2人、地域の人や警察官が私服で入るなどしている。総勢40人近くの教師以外の人間が入り込んでいる。子どもたちは、スポーツ少年団のコーチのいうことには耳を傾けるので、ある程度の抑止力になっている。

荒れる子たちは、勉強ができない子こは限らず、よくできる子と勉強についていけない子が一緒になって授業妨害をしているので、なかなか厄介だ。授業の合間は、いじめの起こりそうなところ（例えば更衣室）にいくと、予想通り起きているので、止めに入ると『勝手に入ってくるな！』と逆切れされたこともある。また、その小学校を卒業した途端、少年院に入ってしまった子もいる。

今年は、別の小学校の2年生の教室に入っているが、同じような現象が見られる。

保護者たちは、自分たちのような部外者が入ってくることに批判的で、厳しい目や態度を向けられる。保護者は学校側に強い不信感をもっているが、とにかく我々が入らなければ授業が成り立たないことは確かなので、学校側は何とか授業ができる体制を整え、事件を起こさないことで精いっぱいなのだ。」

昨今の犯罪の低年齢化について気にかかっていたはいましたが、予想もしない身

近な、しかも小学校での現実にショックを受けました。

企業人の立場で見た今の学校と子どもたち

Aさんに、今のような小学校の状況、小学生にかかわって率直にどんなことを感じられるかをさらに聞いてみると、

「自分は大企業に定年まで勤めてきたので、その視点でしか話せないが、一つは、学校のさまざまなことが企業が努力しているレベルからいうと30年は遅れていると感じる。企業に置き換えたら、とつくに倒産してしまう会社だと思う。社会状況、家庭環境や子どもたちの生活の変化などを見ずに古いやり方をそのまま踏襲しているだけなので、子どもたちが抱えている現実や心と合っていないと感じる。

二つ目は、教師たちが疲れている。みんなまじめで一生懸命だが、子どもへの共感性がなく、パターンで対応し、理解につながっていかない。

三つ目は、子どもたちは、大人や社会を恨んでいる目をしている。何ともいえない目つきで、大人を見る。ある意味、かわいそうにも見えてくる。

子どもたちは、大人に理解されないこと、大人のダメさ加減もわかるので、暴れるくらいしか通じないと思っているのだと思う。

四つ目は、生活の格差のある子が混在している地域の小学校に、多くの問題が出ているように感じる」

さて、教育には無関係な園児のおじいちゃんから伺ったこの現実、一部の特別な出来事、個人の勝手な見方として聞き流すことができるでしょうか？

小学校低学年で問題が出るということは、乳幼児期、つまり保育園や幼稚園時代に何があったかという振り返りの必要性はないでしょうか？

保育園の現場は今

最近話題になっている『ルポ保育崩壊』（小林美希・著/岩波新書）の「まえがき」で「都内で働く保育士（35歳）は、異業種から転身して27歳で保育士になった。「給与が安いのは覚悟して入ったが、離職率が高いのもうなずける」と話す。8年目でようやく手取り19万円になったが、最初は手取り16万円台で都内でのひとり暮らしは厳しく、友人と部屋をシェアして暮らしていた。

1年目はけんしょうえん腱鞘炎になった。体がつらい分、病気がちで 1～2年目は嘔吐下痢症やインフルエンザにかかりやすかった。食育をする立場だけれど、忙しすぎてコンビニ弁当で済ますことも多い。今は0歳児クラスの担当で、かがむことが多く腰を痛め、腰痛バンドが手放せない。

これでは、保育士の犠牲の上に成り立っているようなものだ。筆者は今までも、機会あるたびに保育士の労働について筆をとってきたが、今、改めてこれらの保育所の厳しい現状を描き出し、保育の質の低下、その原因となっている保育行政の貧困状況に警鐘を鳴らさなければ、親子の一生を左右しかねない。そして、それだけでは済まされない国家レベルの問題になると危機を感じている」と表現していますが、まったく共感するところです。

この本に挙げられている保育所への不安や不満は、0～3歳くらいまでの子どもたちの親が主でした。予想していた通り、保育の経費削減による保育の質の低下は、人生の土台をつくる乳幼児期に最も多く悪影響を及ぼすことが確認できます。

子どもの育ち損ねのみならず、親として子どもとともに成長していくことが子育ての醍醐味でもあり、人間として成熟するために意味のあることだと思いますが、そのスタートから不満で不信で始まることは残念でなりません。子育てを通じて社会と豊かにつながり、大人になるきっかけもつか掴めずに、モンスターペアレントを養成してしまう結果となってしまうのではないかと危惧します。

また、日本では0～3歳までの乳幼児の約7割は家庭ですごして、3歳から幼稚園や認定こども園に入園しますが、そこにもさまざまな問題があることは自明のことであり、保育園だけの問題ではないはずです。

このような社会の状況が、前述した小学校の現状と結びついていると思うのです。子どもたちは、全身で大人たちに知らせてくれています。それを抑え込むのではなく、なぜそうなるのかを急いで検証し、社会全体の在り方として本気で取り組んでいかないと、小林氏のいうように国家の質の低下を招きます。

そして、何より残念に思うことは、人にはそれぞれに役割があり、私には成しえない国を救うような力をもった子どもや大人たちが、本当の力を発揮しないまま残念な形で生きる意欲を失ってしまうのは、もったいなさすぎるということです。